

2014年
平成26年

1月9日

木曜日

発行所

岐阜新聞社
岐阜市今小町10番地
〒500-8577(専用番号)
電話058-264-1151(代)
©岐阜新聞社 2014



創刊133年

独居支える安心感

きふ シニア新時代

超高齢社会を生きる

第1部 ⑤

新規入会は当初の年間約30人からこの5年ほどは約90人に増加。住昇所長(66)は「人間関係が比較的濃い岐阜県でもニーズがある。今は元気で将来看越して積極的に契約するシニアが増えていく」と明かす。

元気なうちの奉仕の積み重ねで、老後に備える活動もある。病院の送迎などボランティア活動を行った時間に応じて将来、無料で支援を受けられるシステムの普及に取組むNPO法人ナルク来、733人が入会。現在400人を支援する。と会員は99年の1拠点約

度で、サービスは利用していない。「自分で判断できるうちに決めたかった。安心感がある」とほほ笑んだ。

1人暮らしの高齢者らの老後の不安に 대응する民間団体の活動は県内でも広がっている。

同会岐阜事務所(岐阜市)によると、県内で活動を開始した2003年以降、733人が入会。現在400人を支援する。

昨年12月初旬、岐阜市の縁が薄れた人らを対象の市営住宅。1人で暮らす志村かつ子さん(65)の居室を、家族代行のNPO法人きずなの会(本部・名古屋市中)の支援員藤垣久美子さん(60)が訪ねていた。志村さんが旅した海外の写真を見ながら話に花が咲く。

きずなの会は、親類と員になった。「めいやお

「処分品が2ト車3台分になることもある。遺族の手に負えないケースが多い」と話すのは、11年6月から事業化したベ

シニック東海(岐阜市鹿島町)の鵜飼藤男代表(66)。「1年ほど前から毎月依頼が入るようになった」と認知度向上に手



70人から4拠点約500人に増えた。会員は定年退職後のシニア層が中心。岐阜拠点(岐阜市)の山口弘代表(79)は「来るべき独居への備えや仲間づくりができる点を受け入れられている」とみる。

一方、故人の遺品を処理する「遺品整理士」が増えている。遺品整理士認定協会(北海道千歳市)によると、認定を始めて2年余りで県内で200人以上に達した。リサイクル業者や古物商、廃棄物の運搬・収集業者などが相次いで取得している。

「何度も開腹手術を受けており、この身が役に立

「処分品が2ト車3台分になることもある。遺族の手に負えないケースが多い」と話すのは、11年6月から事業化したベシニック東海(岐阜市鹿島町)の鵜飼藤男代表(66)。「1年ほど前から毎月依頼が入るようになった」と認知度向上に手